# 公立図書館は「再開」したが

毎週土曜日などに定期的に通い、新聞などを閲覧してきた大阪市立中央図書館がコロン禍により、3 月初旬に閉館となった。「研究個室」を予約していたが、2 回キャンセルの連絡があった。とりわけ定期的にチェックしてきた東京新聞や中日新聞、その他の地方紙が閲覧できないのが辛かった。

3 階「研究個室」は予約が必要だが、朝一番から夕方まで、じっくりと研究することができる。私にとって貴重な「居場所」であった。昨年の 10 連休には、毎日通い論文を何とか仕上げることができた。コロナ禍で図書館の大切さ、ありがたさを再認識した。

それから 2 ヶ月半近くが経ち、大阪の公立図書館も「再開」することになった。何回もインターネットで情報を検索してきたが、今度は本当らしい。写真は朝日新聞 5 月 16 日朝刊 1 面掲載の大阪府立中央図書館（東大阪市）で、閲覧席から撤去した椅子を 1 カ所に集める職員の皆さん（15 日午後）。開館は 3 月 1 日以来、本の貸し出しは再開するが、閲覧席や調べもの相談は当面、利用できない。

閲覧席から撤去した椅子を1カ所に集める大阪府立図書館の職員ら=15日午後、大阪府東大阪市、金田遼朗撮影

3 月 2 日から臨時休館を続けてきた大阪市立中央図書館も 16 日から、24 ある全館が再開する。本を借りることはできるが、閲覧室が利用できないなど一部制限があり、滞在時間を 30 分以内にするように呼びかけている。

ネットで調べると、中央図書館は再開するものの、私が利用してきた 3 階は使用停止。椅子は利用できなく、新聞も閲覧できなく複写もできないと案内されていた。これでは、私にとって図書館に行く意味がなくなってしまう。確かに中央図書館は「3 密」になりやすい空間であり、新聞・雑誌などの利用頻度からも、「感染」対策に課題が多いのも事実である。今後の図書館の持続可能なあり方として、どのような閲覧・利用方法がいいのか、図書館としても検討してもらいたい。

大阪市立大図書館が早く利用できればいいが、どうもはっきりしない。当分の間は、これまでのように、写真の大阪市役所市民情報プラザを利用させてもらうことにする。前にレポートしたように、ここは長時間にわたり利用する人はごくわずかで、ひろい机を独占して使うことができる。大阪市史をはじめとして大阪の歴史や行政資料などを手にとることができる。静かなときが多く、じっくりと論文を書くこともできる。

ただし、自宅や駅から近いこともあり、「1 日 8000 歩」ペースを維持できない。それで中之島界わいを散策し、帰りは梅田までいろんなルートで歩くようにしている。

（2020 年 5 月 23 日）